

学校だより

R 5. 10. 25 発行

清水小学校

しみず



「個別最適な学び」と「協働的な学び」

校長

保護者の皆様、地域の皆様、先日は運動会の御参観、ありがとうございました。4年ぶりに人数制限のない運動会で、皆様からたくさんの御声援をいただき、子どもたちは力いっぱい演技や応援をすることができました。閉会式で、赤組・白組双方の団長が勝敗を超えて互いの健闘を称え合う姿に胸が熱くなった方も多かったのではないのでしょうか。私たちは、これからも子どもの健全な成長にとって大切な教育活動を推進していきます。引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

さて、今回は、令和3年に中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」で示された、今後日本の学校で実現を目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」について考えてみたいと思います。

「協働的な学び」とは、「(子どもたちが、)子ども同士、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる」ための学びです。先に紹介した赤組・白組団長に象徴される清水っ子の姿は、地域等の多様な人々との交流を重視してきた本校の、まさに「協働的な学び」の成果と言えます。この「協働的な学び」は、これまでも日本の学校が得意としてきた集団学習や共同学習の延長線上にあるものとして、比較的想像しやすいのではないのでしょうか。ただし、決して画一化ではないということに気を付けなくてはなりません。教師にも子どもにも、一人一人のよい点や可能性を生かし、異なる考えを組合せ、よりよい学びを生み出していく姿勢が求められます。

では、「個別最適な学び」とは、どういう学びなのでしょう。例えば、一つの学級の中で、ヒントをもらいながら教師と一緒に課題に取り組むグループ、子ども同士で話し合いながら学習を進めるグループやペア、一人で学習して共通の課題が解決すれば発展的に自分で学習を進める子など、様々な状態で学習が行われます。また、タブレットを使う子、図書で調べる子、具体物で操作活動をする子など、追究方法も様々です。教師は、「学び方は一人一人違う」という認識のもとで授業を構成します。学習の進め方を一律にせず、子ども一人一人が自分の個性や能力に合った学習を展開できるように指導・支援をするのです。つまり、授業に子どもを合わせるのではなく、子どもの多様性に合わせた授業づくりです。しかし、それは、決して自分勝手な無法状態であってはなりません。そこで求められるのが、子どもの自律心や主体性、互いの違いを認める価値観などです。つまり、こうした学習が成立する背景に、幼い頃から、それらを育てる家庭教育があることを見逃せません。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進める「令和の日本型学校教育」は、学校だけでなく、家庭も地域も力を合わせて作っていくものと言えるかもしれません。



清水つ子俳句広場

運動会も終わり、朝夕は肌寒く感じる日が多くなってきました。校庭の落ち葉やどんぐりからも秋の深まりを感じます。みなさんからは、秋の味覚や風景をうたった俳句がたくさん集まりました。

今回は、二年生、五年生の作品から、教頭先生に選んでいただきました。

【清水つ子俳句大賞】

二年

秋まつりありもいっしょにあるいてく

(評)

十月七日は、秋祭りでしたね。提灯行列やおみこしを担いで、祭りを楽しんだのでしょうか。友達や地域の大人の人たちと一緒に、歩く中で、足元の「あり」に気付いた正侑さん。見上げる先には、立派なおみこし、足元には小さな小さな「あり」。普段から、小さな生き物にも心を寄せ、正侑さんの姿が目に見え、浮かんで来た俳句です。

【目指せ、俳句名人】

★ 「秋祭り」は秋の季語。実は、「あり」も季語なんです。

「あり」は、夏の季語。季語もたくさん、覚えましょうね。

五年

散歩道拾ったどんぐりまだみどり

(評)

この俳句のいいところは、下五の「まだみどり」。秋の訪れを感じさせるとんぐりですが、茶色く色づいたものではなく、緑色のどんぐり。夏の暑さが残る中にも、ちゃんと秋の知らせは届いています。

【佳作】

二年

十ごやにだんごをたべておもいだす

いねすずめとんでさったよあきのあさ

秋の山はつばが黄色あかるいな

アイドルのダンスが上手うんどう会

もみじのはひらひらおちるひろつてく

五年

運動場目の色変わる秋の朝

日没といっしょに落ちる紅葉かな

桐生を見レベルの違いがわかる秋

本屋いき五分はなやむ秋日和

船上で見える灯台星月夜

下

運動会特集！



みなぎる力 光る汗 熱く輝け 清水っ子

体育主任

今年度はコロナ禍を越え、久しぶりに制約の無い運動会となりましたが、何とか荒天を免れ、無事に運動会本番を迎えることができました。

今年の運動会は最後まで接戦となり、両チーム共に最後まであきらめずに勝利を目指す姿がとても印象的でした。また、各学年の演技中の子どもたちの表情もとてもすてきでした。低学年のかわいさいっぱいダンスや中学年のリズム感あふれる演技と表情は、見ているみんなを笑顔にさせてくれました。高学年のソーラン節は、清水の伝統をつなぐすばらしい演技でした。また、高学年の子どもたちは、運動会を自分たちが作っていかうという思いで、応援合戦や開閉会式に取り組み、仲間との絆も深まりました。赤組「灼熱の薔薇」、白組「稲妻の白馬」。どちらのチームもアイデアを生かした応援を作り上げ、仲間にエールを送り続けました。締めくくりとなる閉会式では、二人の応援団長が相手を思いやり、仲間を称える姿に思わず胸が熱くなりました。スローガンにもあるように子どもたちの「熱い輝き」が散りばめられたすばらしい運動会でした。少ない練習期間でしたが、全力で取り組んだ子どもたちに心から拍手を送ります。

最後になりますが、御多用の中、保護者の皆様からは温かい御理解と御協力をいただき、学校行事の一大イベントである運動会を開催できたことに深く感謝申し上げます。また、今年もテントの片付けを快く手伝ってくださった方々へも、この場を借りてお礼申し上げます。大変ありがとうございました。

はじめてのうんどうかい

1年

しょうがっこうはじめてのうんどうかいをしました。がんばってダンスのれんしゅうをしたので、すてきにかわいくおどれたとおもいます。たくさんの人たちがみにきてくれたので、ちょっとはずかしかったです。

いっぱい学べたうんどう会

2年

ぼくは、うんどう会のリレーのせん手になりました。えらばれた時は、うれしかったです。

れんしゅうでは、バトンパスのれんしゅうがむずかしかったので、家で家ぞくとバトンパスのれんしゅうをしました。バトンパスのどうがを見て、べんきょうしました。バトンをわたすときに、声をかけるといいと学んだので、本番は声をかけてみたいと思いました。

本番では、ぼくは4番目に走りました。バトンをわたされたときは3いでした。前の人とのさをちぢめられたのでうれしかったです。

全力を出し切った運動会

3年

私が一番心に残ったのはダンスです。本番では、笑顔で大きく踊ることをがんばりました。みんなが心を合わせて、上手く楽しく踊れたと思います。かけっこは、最後まであきらめず走りきり、1位を取ることができました。赤組は負けてしまったけど、「がんばれ！」という言葉がいっぱい聞こえたとし、私もいっぱい応援しました。小学生になってはじめておじいちゃんとおばあちゃんが見に来てくれて、「よくがんばったね。すごかったよ。」と言ってもらえてうれしかったです。



練習の成果を出せた運動会

4年

ぼくが一番心に残ったのはダンスです。「私は最強」のリズムに合わせて、ひざを曲げるところやスキップ、隊形移動など先生に教えてもらったことを本番で出すことができました。家族や他の学年からの大きな拍手を聞いて、頑張ってよかったなと思いました。

来年は、高学年として下級生のお手本となり、かっこよくソーラン節がおどれるように練習をがんばります。



協力してがんばった運動会

5年

リレーの練習のとき、どうすればうまくできるかな、失敗しないかなと不安でした。本番では、あきらめない、できるという言葉は何度も自分に言い聞かせてバトンをもらいました。ソーラン節では、3回目で反対の動きをすることを忘れずにするのが心配でした。間違えず大きく踊ることができました。たくさんの汗が流れてきて悔いのない踊りができたなと思いました。思い出に残る、楽しく協力してがんばった運動会になりました。



小学校生活最後の運動会を終えて

6年

私が一番心に残ったのは、個人走です。障害物を乗り越えて引いたカードは「教頭先生」でした。最初はどこにいるのかわからなかったけれど、見つけたときは一緒に一生懸命走ってくれました。結果は3位以内に入れてとても良かったです。

二番目に心に残っているのは、ソーラン節です。今まで練習で何度も指摘されてきたけれど、本番ではそれを生かしてかっこいい6年生を見せられたと思います。迫力のある踊りで、踊っていても気持ちが良かったです。校長先生にも6年生は特に腰が低いとほめてもらったので、自分だけじゃなくみんなが努力してきた演技だったのだと思います。

今年、赤組は負けてしまったけれど、来年も「灼熱の薔薇」のように、多くの人を輝かせる清水の歴史を作っていってほしいです。



小学校最後の運動会

6年

あこがれ続けた開会式での児童代表の言葉。自分が言えることになったことに驚き、懸命にせりふを練習しました。本番でも堂々と伝えることができました。

応援団では、副応援団長として応援団長のサポートや、下の学年のお世話も意識してがんばりました。

練習で印象に残っているのは、伝えたり教えたりすることの難しさです。今年最高学年として、5年生にソーラン節を教えることになりましたが、この立場になって「去年の先輩たちはこんなに大変だったんだ。」と感じました。

最後の運動会、参加したみんなが楽しかったと思える最高の運動会になりました。